

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6251857号
(P6251857)

(45) 発行日 平成29年12月27日(2017.12.27)

(24) 登録日 平成29年12月8日(2017.12.8)

(51) Int.Cl. F 1
G 0 9 B 1/28 (2006.01) G 0 9 B 1/28

請求項の数 1 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2015-155484 (P2015-155484)
 (22) 出願日 平成27年7月17日(2015.7.17)
 (65) 公開番号 特開2016-91002 (P2016-91002A)
 (43) 公開日 平成28年5月23日(2016.5.23)
 審査請求日 平成28年9月20日(2016.9.20)
 (31) 優先権主張番号 特願2014-235983 (P2014-235983)
 (32) 優先日 平成26年11月4日(2014.11.4)
 (33) 優先権主張国 日本国(JP)

(73) 特許権者 593218565
 森田 博信
 神奈川県小田原市中村原720-4
 (72) 発明者 森田 博信
 神奈川県小田原市中村原720番地の4
 審査官 彦田 克文

特許権者において、実施許諾の用意がある。

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 教育補助具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

古典文法の並べた助動詞の接続が正しいかどうかを勉強するための多色の色印刷をしたプレートと着色枠を有するガイド枠プレートからなる教育補助具であって、未然形接続・連用形接続・終止形接続・連体形接続・已然形接続のそれぞれの異なる色から成る色印刷された5枚の助動詞のプレートと、動詞、形容詞、形容動詞用の1枚のプレートと、着色枠を有する1枚のガイド枠プレートから成り、未然形接続・連用形接続・終止形接続・連体形接続・已然形接続・動詞、形容詞、形容動詞の6枚のプレートは、未然・連用・終止・連体・已然・命令と記載された部分と、その下に設けた着色領域と、その上に、空欄又は印刷欄を有し、未然形接続・連用形接続・終止形接続・連体形接続・已然形接続のプレートと着色領域を有するプレートを正しい接続に並べたときに、プレートの色と命令形を除く活用形欄の下に表示された着色領域の同じ色が一致することを特徴とする教育補助具

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、古典文法を学習する際の助動詞・助詞の接続の判別に関するものである。

【背景技術】

【0002】

古典文法の従来の学習方法は、ひたすら文法に関する説明文を読み、理解し、活用を覚え、接続関係を覚え、正しい判断をできるように習熟することであった。

10

20

【 0 0 0 3 】

初めて古典文法を学習する者にとっては、文法用語を理解することから学習せねばならず、用語を理解すること自体が大きな障害となり、助動詞の意味と接続関係を説明文の文言だけで理解するには多くの時間が必要になる。

【 0 0 0 4 】

特許文献 1 には、黒板にマグネットで掲示してプレート動かす文法教具が記載されている。しかしながら、特許文献 1 では、学習者に指導する際に指導者が使う教具であった。個々の学習者が自分で学習する為の教具ではないという問題点があった。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

10

【 0 0 0 5 】

【 特許文献 1 】 意匠登録第 1 4 5 3 4 4 7 号

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 6 】

本発明は、このような指導者が使うだけであった教具を、学習者が主体的に自分で選んだ言葉の活用を記入し、記入したプレートを動かして接続の言葉を自分で判断し、その判断が正しいかどうかをこの教育補助具を使うことによって自分で判断し、古典文法の接続を自分で勉強できることを目的とする。

【 課題を解決するための手段 】

20

【 0 0 0 7 】

本発明は上記目的を達成するために、プレートの材質としては、ポリエステル・ポリアミド・ポリエチレン・ポリプロピレン・ポリエチレンテレフタレートが好ましい。厚みは 2 0 0 ~ 3 0 0 ミクロンが好ましい。ホワイトボードマーカーが使用できる縦 1 0 0 ~ 3 6 4 ミリメートル、横 5 0 ~ 2 5 7 ミリメートルの大きさが好ましい。プレートは未然形接続・連用形接続・終止形接続・連体形接続・已然形接続・動詞、形容詞、形容動詞・の多色の色印刷されており、少なくとも 6 枚のプレートと、未然形接続・連用形接続・終止形接続・連体形接続・已然形接続の主な助詞と係助詞が印刷された 2 枚のプレートと、着色枠を有する 1 枚のガイド枠プレートから構成される。

【 0 0 0 8 】

30

少なくとも 6 枚のプレートは、未然・連用・終止・連体・已然・命令と記載された部分と、その下に設けた着色領域と、その上に、自分で言葉を記入する空欄とを有している。小さいと見づらく、大きいと持ち運びに不便なサイズを避け、使いづらくならない大きさが好ましい。

【 0 0 0 9 】

2 枚の助詞プレートは、未然形接続・連用形接続・終止形接続・連体形接続・已然形接続の主な助詞と係助詞が記載された部分と、記載された部分の上に設けた着色領域を有している。小さいと見づらく、大きいと持ち運びに不便なサイズを避け、使いづらくならない大きさが好ましい。

【 0 0 1 0 】

40

1 枚のガイド枠プレートは、プレートと接続する活用形を判断し、自分で書いた言葉に重ねて接続を判断する空白部分を囲む着色枠を有している。小さいと見づらく、大きいと持ち運びに不便であり、外寸は縦 1 0 0 ~ 1 5 0 ミリメートル、横 2 0 ~ 6 0 ミリメートルが好ましい。

【 0 0 1 1 】

古典文法とは、平安時代の言語を基礎にした文章を書くときの文法である。文章を文節に分けたとき、文節を構成する語のうち、文節を構成することができる名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞を自立語とし、常に自立語の下に付属する助動詞・助詞を付属語としている。動詞・形容詞・形容動詞の活用で、語形が交替しない部分を「語幹」といい、交替する部分を「活用語尾」と言い区別する。「咲く」は「咲か

50

・咲き・咲く・咲く・咲け・咲け」と活用するが、「咲」が「語幹」で「く」が活用語尾ということになる。活用表では、「か・き・く・く・け・け」のように活用語尾のみを示して「語幹」は省略して示すのが原則である。未然形を「―か」と示すように各活用形で語幹部分を「-」と示すこともある。活用をする付属語を助動詞とし、活用をしない付属語を助詞とする。例えば「咲かざれば」の「咲か」は四段活用動詞の語幹「咲」と未然形の活用語尾「か」であり、「ざれ」は、打ち消しの助動詞「ず」の已然形活用であり、「ば」は確定条件を示す接続助詞である。古典文法においてはいくつかの例外はあるが、付属語が接続する活用形は決まっている。「ず」の未然形「ず・ざら」連用形「ず・ざり」終止形「ず」連体形「ぬ・ざる」已然形「ね・ざれ」命令形「ざれ」は、必ず「咲く」の未然形活用語尾「-か」に接続する。「ば」は、確定条件を示すときには已然形活用語尾に接続し、仮定条件を示す場合には未然形活用語尾に接続する。「咲かざれば」の「ば」は、「ざれ」という已然形に接続しているので、「花が咲かないので」という現代語訳になる。「ば」が「ざら」という未然形に接続した「咲かざらば」は、仮定条件を示すので、「もし花が咲かないならば」という現代語訳になる。助詞「ば」は、接続する活用形が異なれば、意味も現代語訳も異なる。

10

【0012】

この補助教具はカラープレートに学習者が自ら選んだ言葉の活用をホワイトボードマーカーで書き込み、正しい接続の言葉を自分で判断できるように他のプレートの活用形欄の下に着色領域の表示をほどこしたものである。

【0013】

20

学習者が自分で選んだ言葉を活用させてホワイトボードマーカーでプレートに書き、プレートを動かしてみて、どれが正しい接続の言葉かをまず自分で判断してみる。正しいかどうかをガイド枠で囲まれたプレートと着色領域の色で判断できて、理解できる。自分で勉強することを繰り返すうちに、古典文法の接続の法則に気づき、理解することができる。その上で、古典文法の説明がすらすらと読める。古典文法の接続が理解できると、古典文学への興味・関心を喚起することができる。

【0014】

上記の解決手段による作用は次の通りである。本発明を用いた学習方法は、ガイド枠に囲まれたカラープレートの色と活用形欄の下にある着色領域に表示された色が一致していれば、正しい接続であることが自分で判断できることである。

30

【0015】

連用形接続のプレートの色が青であれば、その助動詞は「連用形」に接続し、ガイド枠に囲まれた「連用」と記載された欄の下にある着色領域が青であれば、正しい接続であることが判断できる。

【発明の効果】

【0016】

発明の教育補助具は、古典文法の自己学習ができる効果を有する。自分が判断した言葉の接続が正しいかどうかは、ガイド枠で囲まれたプレートと着色領域の色が一致しているか否かで判断できるから自己学習ができ、短時間で正しい接続関係を理解することができる。指導者が存在しなくても、この教育補助具が古典文法の接続を指導する家庭教師の役割を果たし、繰り返し学習が容易にでき、古典文法の正しい接続に導くことが自分でできる。

40

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】全体図

【図2】実施形態1

【図3】実施形態2

【発明を実施するための形態】

【0018】

以下、本発明の実施の形態を図1～図3に基づいて説明する。

50

【 0 0 1 9 】

図においては、1は縦26．25ミリメートル横148ミリメートル、厚さ300ミクロンのポリエステル樹脂製のシートからなるプレート8枚と縦52．5ミリメートル横148ミリメートル、厚さ300ミクロンのペット樹脂ガイド枠である。1枚のプレートには例えば黄色を彩色し、右端に未然形接続と印刷し、左端には未然形に接続する助動詞、むず・む・ず・じ・まし・す・さす・しむ・る・らる・まほし・り（サ変）、と印刷してある。1枚のプレートには例えば青色を彩色し、右端には連用形接続と印刷し、左端には連用形に接続する助動詞、つ・ぬ・たり（完了）・けり・き（カ変サ変には変則）・けむ・たし、と印刷してある。1枚のプレートには桃色の彩色をし、右端には終止形接続ラ変型には連体形と印刷し、左端には終止形に接続する助動詞、めり・なり（伝聞・推定）・まじ・らむ・べし・らし、と印刷してある。1枚のプレートには例えば緑色の彩色をし、右端には連体形接続と印刷し、左端には連体形に接続する助動詞、なり（断定）・（体言）+たり（断定）・（が）ごとし、と印刷してある。1枚のプレートには例えば橙色の彩色をし、右端には已然形接続と印刷し、左端には已然形に接続する助動詞、り（四段）、と印刷してある。1枚のプレートには例えば白色の彩色をし、右端には動詞・形容詞・形容動詞、と印刷してある。それぞれのプレートの「未然」の活用形欄の下には例えば黄色の着色領域を色印刷し、「連用」の活用形欄の下には例えば青色の着色領域を色印刷し、「終止」の活用形欄の下には例えば桃色の着色領域を色印刷し、「連体」の活用形欄の下には例えば緑色の色印刷をし、「已然」の活用形欄の下には例えば橙色の色印刷をし、「命令」の活用形欄の下には例えば紫色の色印刷をしている。助詞プレートの1枚には右端に未然形接続の主な助詞と印刷し、未然形に接続する主な助詞、ば仮定条件・で・ばや終助詞・なむ終助詞、と印刷した部分の上部に例えば黄色の着色領域を色印刷し、中間部に連用形に接続する主な助詞と印刷し、連用形接続の主な助詞、て・して（接続助詞）・つつ・ながら（形容詞には語幹）・そ（カ変サ変には未然形）・にしがな・てしがな・など、と印刷した部分の上部に例えば青色の着色領域を色印刷し、左側部分に終止形接続の主な助詞と印刷し、終止形に接続する主な助詞、や終助詞・な（ラ変型には連体形）・とも・「引用。」と・とて・など、と印刷した部分の上部に例えば桃色の着色領域を色印刷してある。1枚には右端に連体形接続の主な助詞と印刷し、連体形に接続する主な助詞、を・に・が・ものの・だに・すら・さへ・か終助詞・など、と印刷した部分の上部に例えば緑色の着色領域を色印刷し、中間部に已然形接続の主な助詞と印刷し、已然形接続の主な助詞、ど・ども・ば確定条件、と印刷した部分の上部に例えば橙色の着色領域を色印刷し、左側部分に係助詞と印刷し、係助詞、ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も、と印刷し、係助詞を記載した部分の上部には着色領域を有していない。助動詞・助詞のそれぞれのプレートは左端に透明の丸い空白部分を有し、パンチ穴を空ける部分を示している。ガイド枠プレートは透明であり、接続を判断する部分を囲む枠を本実施例では赤色で色印刷してあり、固定するために切れ込みのフックを有している。

【 0 0 2 0 】

2は、プレートとガイド枠を重ねた平面図である。接続を判断する例えば赤色に色印刷されたガイド枠に囲まれた部分のプレートの色と活用形欄の下に表示された着色領域の色が一致していれば、正しい接続であることが判明する。連用形接続のプレートを例えば青色に彩色し、連用形欄の下の着色領域を例えば青色に彩色して、接続が正しければ、色が一致するので、正しい接続と判断することができる。例えば、完了を意味する「ぬ」という青色のプレートの助動詞の未然形「な」連用形「に」終止形「ぬ」連体形「ぬる」已然形「ぬれ」命令形「ね」は、「咲く」という動詞の連用形活用語尾「—き」に接続する。プレートの青色と「咲く」の連用形活用語尾「—き」の活用形欄の下に表示された着色領域の青色が一致していれば、正しい接続と判断できることで自己学習ができる。

【 0 0 2 1 】

3は、プレートとガイド枠を重ねた平面図である。接続を判断する例えば赤色に色印刷されたガイド枠に囲まれた部分のプレートの色と活用形欄の下に表示された着色領域の色が一致していれば、正しい接続であることが判明する。未然形接続のプレートを例えば黄

10

20

30

40

50

色に彩色し、未然形欄の下に着色領域を例えば黄色に彩色して、接続が正しければ、色が一致するので、正しい接続と判断することができる。例えば、打ち消しを意味する「ず」という黄色のプレートの助動詞の未然形「ず・ざら」連用形「ず・ざり」終止形「ず」連体形「ぬ・ざる」已然形「ね・ざれ」命令形「ざれ」は、「咲く」という動詞の未然形活用語尾「一か」に接続する。プレートの黄色と「咲く」の未然形活用語尾「一か」の活用形欄の下に表示された着色領域の黄色が一致していれば、正しい接続と判断できることで自己学習ができる。

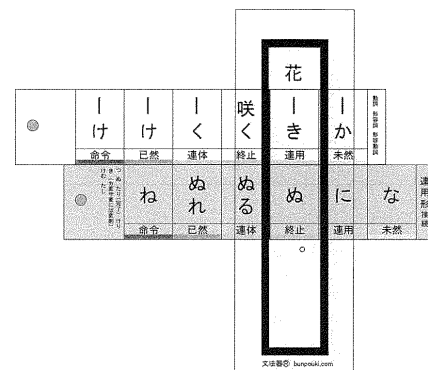
【産業上の利用可能性】

古典文法を学習するときの自己学習に用いるプレートを提供することができる。

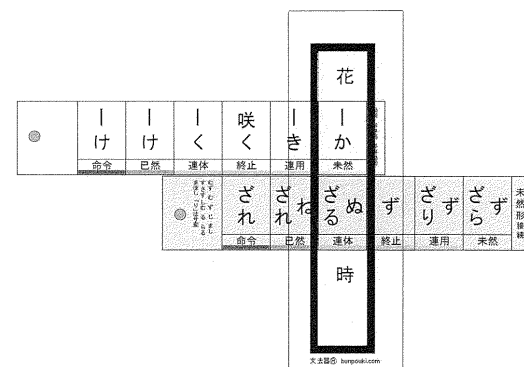
【図 1】

活用形欄	未然形						活用形欄
	命令	已然	連体	終止	連用	未然	
未然形接続							未然形接続
連用形接続							連用形接続
終止形接続							終止形接続
連体形接続							連体形接続
已然形接続							已然形接続
動詞活用形							動詞活用形
命令							命令
已然							已然
連体							連体
終止							終止
連用							連用
未然							未然
活用形欄	未然形						活用形欄
命令	て	な	や	そ	な	は	未然形
已然	な	や	そ	な	は	な	已然
連体	な	や	そ	な	は	な	連体
終止	な	や	そ	な	は	な	終止
連用	な	や	そ	な	は	な	連用
未然	な	や	そ	な	は	な	未然
活用形欄	未然形						活用形欄
命令	て	な	や	そ	な	は	未然形
已然	な	や	そ	な	は	な	已然
連体	な	や	そ	な	は	な	連体
終止	な	や	そ	な	は	な	終止
連用	な	や	そ	な	は	な	連用
未然	な	や	そ	な	は	な	未然
活用形欄	未然形						活用形欄
命令	て	な	や	そ	な	は	未然形
已然	な	や	そ	な	は	な	已然
連体	な	や	そ	な	は	な	連体
終止	な	や	そ	な	は	な	終止
連用	な	や	そ	な	は	な	連用
未然	な	や	そ	な	は	な	未然

【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭56-075772(JP,U)
意匠登録第1453447(JP,S)
実開平07-034454(JP,U)
特開昭49-068836(JP,A)
米国特許第04470821(US,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G09B 1/00 - 9/56
G09B 17/00 - 19/26